

一般社団法人 日本神経精神薬理学会
第 63 回理事会議事録

日 時 2016 年 7 月 1 日 (金) 13 : 00 ~ 17 : 00
場 所 COEX 2 階 「204」
(513, Yeongdong-daero, Gangnam-gu, Seoul, 06164, KOREA)
出席理事 石郷岡 純、池田和隆、尾崎紀夫、加藤忠史、久住一郎、須原哲也、曾良一郎、新田淳美、
橋本謙二、橋本亮太、古屋敷智之、山田清文、吉岡充弘 以上、16 名中 13 名出席
欠席理事 武田弘志、中込和幸、橋本 均
出席監事 齋藤利和 以上、2 名中 1 名出席
欠席監事 松田敏夫
出席委員長 山脇成人
欠席委員長 内田裕之、吉尾 隆、渡邊衡一郎

議 長 石郷岡 純

上記のとおり理事の過半数の出席があり、本会議は有効に成立した。

議 案 :

報告事項

1. 前回理事会(第 62 回理事会議事録)、持回り理事会議決事項の確認がなされ、異議なく承認された。
2. 第 46 回年会(第 30 回国際神経精神薬理学会(CINP)と連続開催)準備状況報告(池田大会長)
池田会長から年会概要について報告がされた。
第 46 回年会(第 30 回国際神経精神薬理学会(CINP)と連続開催)
テーマ:産学官連携と国際連携
場 所:COEX、ソウル江南地区
日 時:2016 年 7 月 2 日(土)~3 日(日)
会 長:池田和隆(公益財団法人東京都医学総合研究所)
 - ・事前参加登録者が当初見込みを超す 581 名となっている。
 - ・発表演題を 172 第予定しており、そのうち 22 題が Late-breaking 演題である。
 - ・中間報告が示され、財政についてもおおむね予定通りとなる見込み。
3. 各種委員会報告
以下、提出資料に基づき、各種委員会報告がされた。
 - a. 執行委員会(石郷岡委員長)
個別の案件が生じればその都度メールにて持ち回り審議することで柔軟に活動していることが報告された。
 - c. 財務委員会(橋本謙二委員長)
理事会等に要する宿泊費について、現状、慣例により 1 泊 10,000 円としているところ、低すぎるとの意見があり、15,000 円に増額すること委員会で検討したことが報告され、承認された。
 - d. 編集委員会(古屋敷委員長)
 - 1) 2015・2016 の刊行状況、投稿状況について報告がされた。
 - 2) 編集委員長が中心となり総説を依頼中。また、各編集委員にも引き続き総説(依頼原稿)の提案を依頼している(依頼中は現在 4 編)。
 - 3) 投稿規程の改定に係る提案について、COI 委員会の立ち上げとその進展を待って、付随する

形で改定予定であることが報告された。

- 4) 学会誌の今後の方針について、以下のような内容について評議員にアンケート調査することが提案がされ、検討された。

- ①業務が重複することから、編集委員会と広報委員会を統合する。
- ②学会誌の発行回数を減らし、冊子体については希望者のみとする。
- ③学会誌掲載情報のうち、ホームページに掲載されているものについてはホームページに一本化する。

学会誌の在り方を変更した場合、経費削減効果が見込めるが、反面、PubMed の掲載が打ち切られる可能性があることなどの事実を明記した上で、メール配信でアンケート調査を実施することとなった。

e. 広報委員会(橋本亮太委員長)

前回提出した会員メール配信運用マニュアルの改訂について、評議員会にて報告する。

f. 倫理委員会(尾崎委員長)

日本精神神経学会での「研究として扱う奨励報告」についてのガイドラインなどが資料として示され、本学会としての態度について検討された。

症例報告をどう扱うかについては精神神経学会でもまだ公表されていないが公表された場合にこれに倣ってはどうかとの意見があり、精神神経学会での決定を注視することとなった。また、厚生労働省が検討している「臨床研究規制法案」についての資料が示され、動向について説明があった。

利益相反について討議され、どの程度の関連性について申告するのかなど検討されたが COI 委員会の立ち上げに従って投稿規程や年会の演題募集規程などに反映させることとなった。

b. 総務委員会(山田委員長)

2015年9月1日から2016年5月31日までの会員動向について以下の通り報告された。

会員数	名誉会員	27名
	功労会員	32名
	評議員	244名
	一般会員	756名
	学生会員	155名
	賛助会員	14社
新入会		112名
退会		36名

また、名誉会員の稲永和豊先生、亀山勉先生、小林雅文先生がご逝去されたことが報告され、評議員会で黙祷を捧げることとなった。

h. 学術賞選考委員会(吉岡委員長)

1) JSNP Excellent Presentation Award for CINP

対象40名のところ、申請が37名であったため、適当か否かについて選考し、全員を的確として選出した。

2) 2016年度優秀論文賞の件

審査対象の2論文について審査したが、2論文とも審査要件を満たさないとして、今年度は受賞論文なしとした

3) 2016年度学術奨励賞の件

6名の申請があり、研究実績および将来性などの観点から審査し、基礎系1名、臨床系1名を以下の通り選出した。

<非臨床系>

岩本 和也(熊本大学大学院生命科学研究部分子脳科学分野)

「Exploration of genomic and epigenomic variations in neurons of mental disorders」

<臨床系>

内田 裕之（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室）

「Individualized antipsychotic treatment for schizophrenia」

4) その他

Excellent Presentation Award for CINP2016 について所属施設が偏っていたことに対する疑義があったことが報告されたが、申請段階で抑制すべきでもないとの結論となった。また、Excellent Presentation Award の賞の設定について責任を負う委員会について疑義があり、執行委員会であることが確認された。

g. 国際学術委員会(池田委員)

AsCNP の財政状況について 2015 年度決算、2016 年度予算案について資料を元に報告され、健全に運営されていることが説明された。また、会員の内訳（国別）の状況が報告された。齋藤監事より、イノベーションサミットから続いている創薬のための作業が続けられていることと、池田理事が CINP の理事に当選したことが報告された。また、ACNP よりアジアからの参加者の枠が AsCNP へてに通知されていることが報告され、JSNP からも参加者を選出することが説明された。

i. 企画(研究推進)委員会(久住委員長)

昨年時より変わりなく、特に報告事項はない。

j. トランスショナル・メディカルサイエンス委員会(中込委員長欠席により石郷岡理事長)

企業からの依頼について、1 件対応したことが報告された。

k. 薬剤師ワーキンググループ委員会(吉尾委員長欠席により石郷岡理事長)

委員会の直接的な活動ではないが、精神科薬剤師の学会として日本精神薬学会を立ち上げるため、決起大会をソウルで開催する予定になっており、本学会とも連携して薬剤師の活躍を推進することが報告された。

l. 統合失調症ガイドライン作成タスクフォース(石郷岡委員長)

1) ガイドラインが書籍化され、概ね好評である。

2) Minds よりガイドラインの掲載について希望が来ていることが報告され、許可するかどうかが検討することとなった。

m. Nomenclature ワーキンググループ委員会(内田委員長欠席により池田副理事長)

Neuroscience-based Nomenclature (NbN) タスクフォース会議については、一応の結論となり、5 月ごろから色々なジャーナルにてアナウンスされていることが説明された。次の課題として児童思春期の Nomenclature を検討することで準備されている。なお、日本神経精神薬理学雑誌 6 月号にも掲載された。

n. 薬事委員会(渡邊委員長欠席により尾崎委員)

自動車運転に係る法律が制定されており、精神疾患の方、向精神薬服用中の方についての制限ができています。特に向精神薬の場合、禁止すべき薬剤もあるが、色々なことに配慮せず一律に規制されている。これに関して日本神経精神学会、日本うつ病学会、本学会として厚生労働省に働きかけており、必ずしも禁止が必要ではない薬のリスト化などを行っている。検討中

4. 第 47 回年会(第 37 回日本生物学的精神医学会年会との合同開催)開催報告(久住理事/ BP 大会長)

会長：南 雅文(北海道大学大学院薬学研究院薬理学研究室)

開催日：2017 年 9 月 28 日(木) - 30 日(土)

会場：札幌コンベンションセンター日時：

テーマ：脳と心のフロンティア～「知」と「療」の連携

合同シンポジウムと委員会シンポジウムを予定しているとして、シンポジウムの提案が依頼された。また、症例報告セッションを引き続き実施するとのことで、応募が奨励された。

5. CINP、ACNP、ECNP、AsCNP 等国際対応について（山脇国際委員長）

CINP 理事長として CINP2016 への協力に対し謝辞が述べられた。

また、AsCNP について、次回の大会はバリで開催されることと、CINP 中にカウンセラーミーティングが開催されることが報告された。

ECNP について、Nomenclature の方向性が決まり、論文を応募する際に、決められた名称で記述する必要があることが説明された。

ACNP について、現状は AsCNP としての参加枠があるが、この枠を広げていく方向で動いていることが説明された。

CINP について、今回は、ジョン・クリスタル会長によりウィーンにて開催されることと、キャスパー教授がプレジデント・エレクトに当選したことが報告された。

6. 日本脳科学関連学会連合について（山脇評議員）

脳科連合の将来構想委員会にて、「脳科学オリンピック」について関連学会からの援助をすることとなり、本学会よりも 5 万円を支出したことが報告された。

高校教育で人間に関して特に脳に関しての教育機会がないことのほうが問題との指摘があった。

審議事項

1. 2016 年度中間報告について（橋本謙二財務委員長）

2016 年度の中間報告について、適切に処理されていることが報告された。

2. 2016 年度収支予算案について（橋本謙二財務委員長）

1) 2016 年 9 月 1 日から 2017 年 8 月 31 日までの予算案について確認された。承認された。

2) 収入合計 47,590,600 円、支出合計 51,400,600 円、収支差額△3,810,000 円となっていることが報告された。

3. 理事・監事予備選挙結果報告（山田総務委員長）

6 月 14 日に予備選挙の開票を実施し、臨床系理事 8 名、次点、次々点、非臨床系理事 8 名、次点、次々点、臨床系監事 2 名、次点、次々点が選出されたことが報告された。本選挙は 日の評議員会にて実施される。候補者は以下の通り。

理事（臨床系）：井上 猛、岩田仲生、大森哲郎、笠井清登、功刀 浩、西川 徹、宮田久嗣、山脇成人

理事（非臨床系）：大隅典子、菊池哲朗、竹林 実、津田 誠、成田 年、福永浩司、南 雅文、宮川 剛

監事（臨床系）：西川 徹、吉村玲児

今回の選挙の問題点として、理事・監事の両方の候補者となった場合、理事を優先されるが、2 名ともが両方の候補に上がっていて 2 名ともが理事に当選した場合、監事選挙がやり直しになってしまうこと、また、選挙直前に候補辞退する方が何名かいたことなどが挙げられた、総務委員会にて規程を検討することとなった。また、開票や所信表明の準備など事務量が多く、総務委員会だけでは大変なので、選挙管理委員会を設立してはどうかとの提案があった。検討の結果、選挙管理委員を改選対象ではない理事のなかから選出し、設立することが承認され、次回選挙より実施される。

4. 名誉会員・功労会員推戴の件（山田総務委員長）

候補者が以下の通り報告され、承認された。

名誉会員： 齋藤利和、鈴木 勉、武田雅俊、仲田義啓、米田幸雄

功労会員： 高橋正克、宮本政臣、中村 純、山寺博史

5. 新評議員の承認の件（山田総務委員長）

以下の 3 名が推薦され、審議の結果、新評議員として評議員会へ推薦することが承認された。

（敬省略）

竹本さやか（名古屋大学環境医学研究所） 推薦：石郷岡純／池田和隆

宮川 和也（国際医療福祉大学薬学部薬理学分野） 推薦：武田弘志／辻稔

野村 淳（理化学研究所脳科学総合研究センター） 推薦：内匠透／古川武男

6. 新入会希望者承認の件（山田総務委員長）
2016 月 4 日 1 日から 2016 年 6 月 30 日までに、正会員 11 名、学生会員 7 名、合計 18 名の入会申込があったことが報告され、全員が承認された。
7. ガイドラインについて（橋本亮太統合失調症薬物治療ガイドラインタスクフォース委員）
(1) 転載許諾について
ガイドラインの転載許諾について検討され、関連学会や教育機関からのリンクや転載依頼については原則認める一方で、営利企業からの転載許諾については、原稿を提出いただいた上で広報委員会で判断することとなった。
(2) Eguide 研究について
Eguide 研究の講習会について、修了証およびバッチの制作について提案され、承認された。
8. 3 学会合同開催実績について（池田理事）
池田理事より、日本神経化学会、日本生物学的精神医学会、日本神経精神薬理学会の 3 学会の開催実績や、会員の重複などについて説明された。改めて 3 学会で、連携していくことの意義が確認された。また、日本臨床精神神経薬理学会とも連携していくことが確認された。
9. 物故会員の追悼文について（古屋敷編集委員長）
学会誌に掲載される追悼文について、執筆の経緯や執筆者について検討された。ご逝去された名誉会員について全員の追悼文が執筆されている訳ではないことが指摘され、その準備として名誉会員になる際に略歴を提出いただいているなどの指摘もあったが、物事の性格上、物故者の関係者から追悼文の執筆希望があった際に対応することとなった。
10. 学会への質問について（石郷岡理事長）
高校生からの質問があった件について、学会としては個別の質問には対応していないとのお返事をお送りすることとなった。
11. 聖マリアンナ医科大学の件（石郷岡理事長）
ガイドラインにも掲載されている論文についての問題で、聖マリアンナ医科大学内で調査中でまもなく結論が出る予定であることが説明された。学会は調査機関ではないので、学内の調査結果が出た段階で大学側に調査結果報告の提供を依頼し、その内容によって対処を検討することとなった。
12. 賛助会員の件（山田総務委員長）
賛助会員の現状について、そのメリットをはっきりさせることで存続を図るか、あるいは制度そのものを廃止するかについて提案があり、例えば、TMS 委員会の活動の費用負担についてメリットを与えることはできるか、年会参加への特典を明記することはできるかなど検討され、総務委員会にて検討することとなった。
13. ガイドラインの英訳について（石郷岡理事長）
ガイドラインの英訳について提案があり、検討の結果承認され、予算案を修正して予算を計上することとなった。

平成 28 年 7 月 1 日

一般社団法人 日本神経精神薬理学会 理事会

議長 代表理事 石郷岡 純

出席理事 池田 和隆

出席理事 尾崎 紀夫

出席理事	加藤忠史
出席理事	久住一郎
出席理事	須原哲也
出席理事	曾良一郎
出席理事	新田淳美
出席理事	橋本謙二
出席理事	橋本亮太
出席理事	古屋敷智之
出席理事	山田清文
出席理事	吉岡充弘
出席監事	齋藤利和